

自立・自己実現

- ①生活習慣と規則を守る力
- ②仲間とともに高まる力
- ③自ら学び、考え、判断する力

学校だより

発行責任 松田勝樹

茨木市立西中学校

5月 No.3

「先生によって態度が変わる」 は 中学生生活の不幸の始まり

5月生徒集会
校長講話

中学校では、学級担任を中心に15人ぐらいが君達の担任です(教科担任、委員会担任等)。そして、15人が1つのチームとしてまとまる努力をして学年担任をしています。

※ 朝の先生達の会議も学年の会議時間をしっかりとるために、教頭先生が学校全体の会議は1分以内に効率的にする努力をされています。



中学校で、^{あこが}憧れの先生と出会うことは中学生生活だけでなく、人生を幸福にします。でも、「先生の好き嫌いを^い作り、先生により態度が変わる」は君達を不幸にします。

私の昔の話です。A中からB中に転勤をした年の誕生日の時の話です。前の学校であるA中の女子生徒が誕生日プレゼントをB中にわざわざ持ってきてくれました。

もちろん、お礼を言い感謝しました。でも、先生の気持ちは……①うれしい気持ちでいっぱいだった。②うれしいけど少し暗い気持ちもあった。さて、どちらでしょう？

答えは②です。なぜかと言うと、ひょっとして、私の後のA中のA先生が嫌で、「A先生嫌やなあ。松田先生の授業の方がずっとよかったわあ」になり、それで来たのではないか！？もし、そうであれば、A先生が不幸というより、生徒達が不幸です。なぜなら、私と比べてA先生が嫌になり、そのためにA先生の授業をおろそかにするようになるかもしれない、そう心配がよぎったから、少し暗い気持ちが出てきてしまったのです。



※ 私は離任式(お別れの挨拶の集会)で、どの学校でも言ってきたのは、「先生の言うことをちゃんととききや！」です。それが、愛する学校の生徒達を幸せにするために一番大切なことだと思っているからです。

でも、もし私が、私より「人気のある」C先生の後に授業をすると、今度は私がA先生になり嫌われるのです。中学時代に^{あこが}憧れる先生に出会うことは素晴らしいことです。でも、実際は学校の先生の好き嫌いとか人気というのは、上の例のように他の先生との「自分都合での^{いや}嫌さ度」の比較で、好きな先生を^い作ることが多いのです。そして、それが、先生によって態度を変えるになると、自分達にとって最高の不幸の始まりになるのです。

だから、私は、学年担任をしている時には、好かれる先生の立ち場になってしまうことへの恐怖感が常にありました。それは、①先生の好き嫌いで好きな先生になるということは、一方で嫌われる先生を作ってしまう危険性がある。もし、嫌いな先生を作ってしまうとその先生の指示が私より通りにくくなり、その授業を受けている生徒が不幸になる。

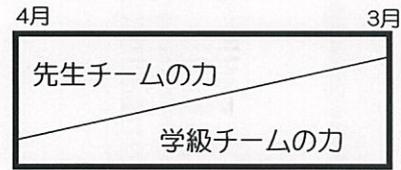
②先生により態度を変える生徒がたくさん出てくると、先生達のまとまった力が弱くなり、君達を守る校則もいよいよ加減になる。その結果は、君達が一番不幸になる。

③好きな先生になった私は、嫌われた先生の指示をきかない生徒に対して、校則を守らず責任を果たさなければならぬ。だからです。実際に授業の遅刻指導や服装指導は、他の先

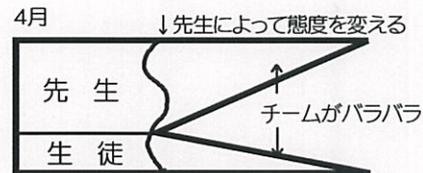
生がするとかえってもめるので、一人でやらなければならない学校もありました。

中学校は約15人のチームが君達の担任です。先生によって態度を変えるは、君達の不幸の始まりです。そして好き嫌いで好きにされる先生にとっても不幸の始まりです。

入学式と始業式場で「みんな良くなりたいの気持ちと力」を持っているという話をしました。それを伸ばしていくために、4月は月間目標のゴール(学級目標・委員会目標等)を決めました。そして、そのゴールに向かって5月の月間目標である授業を大切に、修学旅行や校外学習では初めて学年がまとまって自分達の力で行事を創る最初の月でもあります。それは、たしかに自分達の力で創っていかなければならないのですが、まだまだ、先生方の力も借りなければなりません。



幸福の図式



不幸の図式



そんな大事な先生達の力を先生の好き嫌いで態度を変えるようなことをすることは、君達にとって不幸なことだと思います。一人ひとりの「良くなりたい気持ちと力」を伸ばしていくためにも、先生によって態度を変えない、そんな自分や学級・学年にしてほしいと思います。



その他の「先生の好き嫌い」の話

(1) C中学校で私は、2つの学年の授業をしてました。自分の学年では、そんなに人気はなかったですが、他の学年では人気がありました。ちなみに、私は自分の学年では生徒指導をしていました。結局は、同じ教師でも、その学年の生徒に思いを持ち、責任感をもっている私とそうでない私では、そうでない私の方が人気があったのです。

※そこから、次のことを思っています。校則についてあまり厳しく、ひつこく言わない先生、だから話もしやすい、聴いてくれる先生が人気があるでなく、生徒を大切に思い、校則についても厳しく、ひつこい先生が正当に評価される学校がいい学校だと思っています。1年の福田先生、2年の石井先生、3年の後藤先生には、私のいた学年の仕事と同じ生徒指導をしてもらっています。生徒に嫌われることを恐れず、生徒を信用して、生徒を守るため、「校則が守れる生徒(校則違反、服装・頭髪違反をしない生徒)、学級を大事にする生徒(遅刻や学級から離れるをしない生徒)」を育てる仕事をしてほしい」と思っています。

(2) 私が新任で入った学校の話です。その時に10人を超える新任が入りました。でも、数年後にその学校に残っていた先生は数人でした。辞められた先生の言葉が印象的でした。それは、「私力ががないから生徒に迷惑をかけた」の言葉です。この先生に力がなかったと言えばそれまでです。でも、このように、生徒への思いをもった先生が必ず人気があるとはならないのです。

※そこから、次のことを思っています。「怖い」だけでなく、生徒を大切に思っている、そんな先生の思いがわかる、そんな生徒一人ひとりになってほしいと思っています。そして、そんな生徒・学級が育つ先生方のチーム力がある学校にしなければならないと思っています。

